

近年、県央振興局管内で農業用施設からの油流出事故が相次いで発生しています。

油流出事故はその回収が大変困難だけでなく、生態系に大きな影響を及ぼすおそれがあります。また、油を流出させた原因者は高額な処理費用を負担することになり、さらに損害賠償を請求されることがあります。

事故を未然に防ぐために防油堤を設置するとともに、万一に備えて賠償責任保険への加入をお願いいたします。

【実例】 A重油1,000L が河川へ流出

内 容	経 費
土砂の入替・処分費	400万円
重油吸着マット費	100万円
人 件 費	100万円
合 計	600万円



重油の回収作業



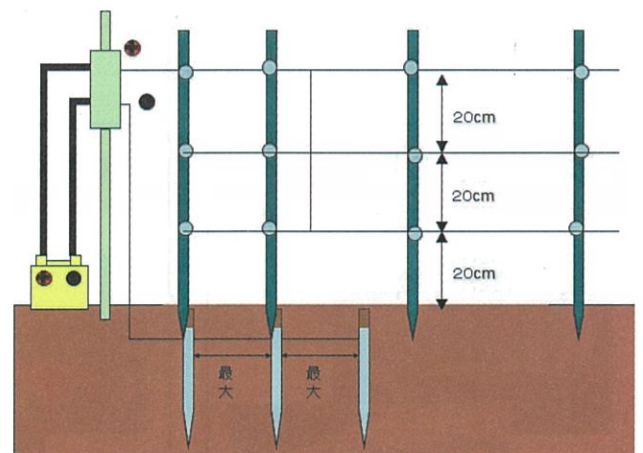
流出した重油の吸着

## 電気牧柵の管理について

イノシシ対策で導入している電気牧柵は非常に効果が高いものですが、設置と管理が不適切な場合、被害を受ける場合があります。以下のことに注意し、適切な管理を心がけましょう。

### 《設置のポイント》

- ①電牧線の高さは、地面から20cm、40cm、(3段の場合は60cm) のイノシシの鼻先が当たる高さに設置する。
- ②アースは水分の多い場所に深く打ち込む。(複数のアースはコードを最大限延ばし設置)
- ③イノシシの足を着く位置 (30~40cm 手前) がコンクリート等の舗装の場合、電圧が弱くなる (通常の1/3程度) ため、それを考慮して設置する。



### 《管理のポイント》

- ①ソーラータイプの電気牧柵でもバッテリーは消耗するので、必ずテスターで電圧確認し、4,000ボルトを下回ったら充電する。
- ②イノシシは見慣れないものがあると、最初だけ鼻で確認する。この時電気が流れていないと、次からイノシシは潜り抜けてしまうので、設置後昼夜を問わず電気を流す。
- ③雑草等が電牧線に触れると漏電して電圧が弱くなり、またバッテリーも消耗するので、除草は徹底して行う。